

鷹取山自然観察会会報

2022. 6. 5 NO. 36

鷹取山の植物相調査結果 — 2021年調査 —

鷹取山は三浦半島北部に位置しており、神武寺から繋がる自然豊かな場所として、神奈川県生物多様性ホットスポットに選定された場所です。また、一昨年、一般社団法人関東地域づくり協会と公益財団法人日本生態系協会が主催する「関東・水と緑のネットワーク」に応募し、鷹取山公園及び鷹取山自然観察会が選定されました。

鷹取山自然観察会では 2013 年 11 月から会員有志で植物相調査を開始し、2016 年 2 月に環境省自然環境局生物多様センターが主催するモニタリングサイト 1000 里地調査（モニ 1000 里地調査）の一般サイトに登録しました。これまでの調査結果については会報 12、16、20、24、28、32 号で報告しています。今回は、2021 年 1 月～12 月までの調査結果を報告します。



オオシマザクラ

1. 調査方法

植物相調査はモニ 1000 里地調査マニュアルにより行いました。モニ 1000 里地調査は、定められたルートを定期的に歩き、植物の種名を記録する「トランセクト法」で行っています。この方法は、「高い精度で調査を行うことよりも、同じ精度で継続的に植物相を記録すること」を第一に優先しています。

当会では毎月 1 回、第 2 金曜日に調査を行っています。モニ 1000 調査マニュアルでは、木本及びシダ類、イネ科、カヤツリグサ科は除いてもよいとなっていますが、当会は維管束植物のすべてについて調査しています。2021 年はシダ類について調査はしなかった。

記載方法は、原則として種ごとに蕾、花、実の状態をチェックしています。種が不明なものについては標本を採取し、後日博物館等で同定・確認しました。

2. 調査範囲及び区間別の特徴

鷹取山周辺は鷹取山公園を中心として尾根沿いに緑地が広がっています。西側には沼間～神武寺まで広大な緑地となっています。この地域の全てを調査することは困難であることから、神武寺に至る逗子側を除き、横須賀市側について植生の違う場所を行っています。調査区間は調査ルート 3.5km として、植生の違う 6 区間に区分しています。調査区間の図は会報 32 号に掲載しています。

区間ごとに特徴をみると、A 区間は鷹取山公園を中心とした場所であり、コナラ、クヌギ、ムクノキ、ケヤキ、オオシマザクラ、ミズキ、イヌシデ、カラスザンショウなどの落葉広葉樹とスダジイ、タブノキ、ウラジロガシ等の常緑広葉樹もまばらにみられます。ヤマグワ、タマアジサイ、シバヤナギ、キハギ、ヤマツツジ（写真参照）、ハコネウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、コゴメウツギなどの中低木も多くみられます。また、至る所でアオキの繁茂がみられ、草本類では展望台付近にセンボンヤリ、岩場にはケイワタバコの群落が見られます。ケイワタバコは横須賀市内では貴重な種である。公園内には草地の広場があり、不定期ですが草刈りが行われています。この草地は、イネ植物、キク科植物が生育していて、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、アレチヌスビトハギ、メリケンカルカヤなど帰化植物が侵入し増えています。



B区間は湘南鷹取住宅と子供の遊び場としての公園です。住宅地は路傍雑草などが中心でアブラナ科、アカバナ科、キク科、イネ科などの外来種も多く確認されています。また、鷹取小学校の石垣にはトラノオシダ、イヌカタヒバなどのシダ類、コモチマンネングサ、コバノタツナミ、シンテッポウユリなどが年間を通じて見られます。

C区間はアカガシ、スダジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が多く、コナラ、イヌシデの落葉樹も混在しています。シイ、カシの森は冬でも暗く、林内は下草が少ない場所もあります。この区間にはクロモジ、ヤマコウバシ、ハナйкаダ、ムラサキシキブなどの中低木もみられます。草本類ではキッコウハグマ、ツルカノコソウ、ヤマネコノメソウなど、この区間でしか見られないものも数多い。2017年に東電の鉄塔工事があり、工事区間で樹木の伐採が行われ、伐採後にカラスザンショウの実生が多く生育しています。

D区間ではクヌギ、コナラ、オオシマザクラ、ニガキ、イタヤカエデ、エノキ、マルバアオダモなどの落葉広葉樹が多く、中低木として



ムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、ツクバネウツギ、シャリンバイなども普通に見られます。下草としての草本類は豊かで、ツクバトリカブト（写真参照）、ホタルカズラ、ヤマハッカ、ヤクシソウなど在来の植物相が残っている区間です。E区間は逗子沼間の保安林及び自然環境保全地域に指定された林縁であり、林内には、スギ、ヒノキ、シロダモ等の常緑樹や、中低木としてムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、マユミ、アオキ、ヤツデなども普通に見られます。

F区間は畑地がある場所であり、畑地沿いには、ニラ、ノビル、ヒメウズ、ヒガンバナ、オオジシバリ、ツルボ、カントウヨメナなど草地や土手などに生える草本類が多く見られます。

3. 調査結果

調査開始 2013 年～2021 年までに確認した種は表 2 のとおりであり、696 種であった。木本 64 科 203 種、草本 62 科 439 種、シダ植物 16 科 54 種でした。これらの植物相の目録については、ここに掲載できないため会員に別途添付ファイルで送付しましたので、ご覧ください。

表 1 区間別の調査結果

区分	A	B	C	D	E	F	合計
草本	295	268	249	173	153	174	439
木本	131	78	115	100	84	82	203
シダ類	34	20	27	31	14	21	54
合計	460	366	391	304	251	277	696

(1). 新たに見つかった種

観察を続けていると新たに見つかる種があり、楽しみです。草本ではノアザミ（写真参照）、ヤセウツボ（写真参照）、アワ、オオオナモミ（写真参照）、ヤブタビラコ、ナガエコミカンソウ（写真参照）、コ克蘭（写真参照）、マヤ

ラン、クゲヌマラン、オオバノトンボソウなど。木本ではヤマガキ、コムラサキ、ソテツ、ヤエヤマブキ、ヒメユズリハなどが新たに見つかっています。これらの中には以前から生育してい

たもので、見逃しがあったものと思われます。
ノアザミ、コムラサキは最近植栽したものです。



(2). 帰化植物

調査区間の自然度を見るため草本類について帰化植物と在来種の分布割合を調べました。帰化植物とは、外国原産の植物で、牧草用や鑑賞用として輸入されたものが野生化して各地に広まっていった植物です。一方、日本に古来から生育している種は在来種といわれています。一般的に都市化されてくると帰化植物が入り込み在来種の生息域を狭めてくることが知られています。

また、逸出種という栽培種が野生に入り込むものがあり、逸出種も帰化植物に入れました。逸出種にはオシロイバナ、ヒルザキツキミソウ、オオアラセイトウ、ノシラン、ヒメツルソバ、ハナニラなど園芸種などから野生化したものが多くあります。帰化植物・逸出種の区分は横須賀市自然・人文博物館編「三浦半島の野生植物」により確認しました。

区間別の帰化植物の割合は表 2 のとおりであり、区間全域の帰化率は 28.9%であった。ちなみに神奈川県植物誌 2018 によれば、神奈川県全域で 32.0%となっていて、帰化率は年々増加傾向にあります。

区間別に特徴を見ると、A 区間は鷹取山公園内であり、人の出入りも多く、開けた草地があ

るためイネ科、キク科等の帰化植物が増加しています。また、人により持ち込まれた園芸種が年々増加傾向にあります。B 区間は住宅地の道沿いと広場などであり、帰化率が高くなりました。一方、D E 区間は在来種の割合が高く、帰化率は低くなくなっていました。

表 2 区間別の帰化率

区間	帰化率 (%)
A	28.1
B	35.4
C	22.9
D	8.7
E	9.8
F	23.6
全区間	28.9

4. その他

一昨年から新型コロナの感染が拡大し、昨年も全国的に緊急事態宣言が発令されました。当会では植物相調査については感染対策を充分とりながら実施しました。今後も植物相調査を毎月行っていく予定である。観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれない。調査することは楽しみでもあり、続けることでこの地域の植物相がはっきりしてくると思います。

2021 年に「関東・水と緑のネットワーク」の

助成により、「鷹取山の自然を守るマナー」の看板とリーフレットを作成し、植物相の保護の啓発をしています。また、いつでも自然観察できる里山を後生に残してほしいと願っています。

2021 年の調査に参加した人（敬称略・順不同）

本多久男、金子龍次、小池順子、中村紀雄、高橋和子、三科清高、郡司久、村上良二、市川實、伊沢昭司、北村一男、星野節子、大澤美恵子、菅沼桂子

総会の開催（報告）

鷹取山自然観察会は、毎年 5 月に総会を開催していますが、昨年、一昨年と新型コロナウイルスの感染拡大に伴い総会の開催ができませんでした。今年は 3 年ぶりに自然観察会の終了後に開催したので報告します。

昨年度の会計報告と今年度の事業計画案、予算案は了承されました。今年度の事業計画は昨年度とほぼ同様であり、事業計画は次のとおりです。

当会の活動は、子供から大人まで地域住民に自然環境の大切さを認識してもらうため、自然観察を通して自然保護の大切さを呼びかけ、「自然観察の里山づくり」を目指すものです。

令和 4 年度事業計画

自然観察会、調査・広報活動

1. 自然観察会の開催

(1) 定期的な自然観察会の観察会の開催

実施時期 毎月原則として第 2 日曜日
雨天の場合は翌週に延期

2. 植物相調査など生き物調査

環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査により植物相及び蝶、鳥類について調査ルートを歩き、記録する。また、会独自にセミの抜け殻調査などを行う。

(1) 植物相調査 第 2 金曜日

(2) 蝶類調査 4 月～11 月の間 第 1、3 金曜日

(3) 野鳥調査 越冬期：12 月～3 月の間 第 1、3 金曜日に 1 往復 繁殖期：5 月 27 日金曜、 6 月 7 日火曜、24 日 金曜に 1 往復



(4) セミの抜け殻調査

7 月 22 日金曜日、8 月 26 日金曜日 2 回

(5) ナラ枯れ調査 未定

3. 会報の発行などによる広報

(1) 会報 年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月）発行し、会員、横須賀市博物館、県博物館、横須賀市・逗子市・神奈川県 of 自然環境関係機関、横須賀市自然環境活動団体交流会、鷹取山安全登山協議会などに送付する。

(2) 「鷹取山の自然を大切に」リーフレットを公園内のチラシケースにより配布。

(3) ホームページの更新 随時更新

4. 「鷹取山の自然を大切に」のリーフレットの配布

公園内に「鷹取山のマナー」の看板を設置し、リーフレットは自然観察会などで配布するほか、公園内に配架している。

5. よこすか環境教室（環境教育指導者等派遣事業）等への協力

よこすか環境教室に「環境教育指導者」として団体登録している。市内の小中学校などから自然観察の依頼があれば対応する。

6. 他団体との情報交換

- (1) 横須賀市自然環境団体交流会
- (2) 三浦半島まるごと博物館

自然観察の里山づくり

1. 樹木板の設置

鷹取山公園を中心に平成 25 年から樹木板を設置している。今年度は引き続き樹木板の掛け替えを行う。 随時

2. 巣箱の掛け替え

平成 25 年から野鳥の保護と野鳥観察を目的として巣箱掛けを行ってきた。現在約 17 個の巣箱が掛かっており、その掛け替え作業をする。

これらの活動全てについて、会則に則り実施していますが、強制ではありません。
興味関心のあるイベントにご参加ください。

実施時期 令和 4 年 11 月 18 日金曜日

3. 掲示板

鷹取山公園に市が設置した掲示板を活用し、季節の花だより、山で見られる蝶、野鳥、ドングリ、樹木マップなどポスターを作成して掲示する。 毎月更新

4. 鷹取山公園の自然保護

鷹取山公園を管理している横須賀市と平成 29 (2017) 年度「鷹取山公園等を自然観察の里山づくりの利用について」として協定を結び次の活動をする。

- (1) 貴重種の保護を目的とした看板、柵の設置
- (2) ビオトープ、貴重植物の保全活動
- (3) 植樹場所の維持管理

稲垣栄洋著『38 億年の生命史に学ぶ生存戦略』を読んで

鷹取団地のパイオニアプランツは、ツクサ カタバミ ワルナスビ ドクダミ ノブキ ハルノゲシ オニノゲシ セイタカアワダチソウ オランダミミナグサ キュウリグサ オニタビラコ ニワゼキショウ ナガミヒナゲシ エノキグサ等の双子葉植物、それにエノコログサやオヒシバなどのイネ科類の単子葉植物が多くありました。開発から 50 年近くなる鷹取団地は、初期に建てられた住宅は老朽化が始まり、建て替えられる家が増え始めていま

す。建て替えるには家を撤去して更地にします。昨秋から更地になったままの土地(写真①)に、現在どんな植物が生えてくるかを観察してみました。これらの植物の中には、元の家に生えていたものと、更地になってから種が飛んできたものがあると思います。また、造成されてからいまだに空き地のままの区画もあります。そこはセトガヤ等の単子葉植物が全体を占め、その中にまばらに双子葉植物が生えています。やがて、真夏にはススキで覆われ、秋に刈り取られることを 40 年以上繰

り返されてきました。鷹取山の尾根筋の日当たりの良い場所もススキが覆っています。草地の最終段階はススキであることがわかります。

植物をあれこれ観察していて、常に疑問に思っていたのは、植物にはどうして木と草があるのか、また双子葉と単子葉植物があるのかということです。そんな根本的な疑問を解決してくれたのが本書でした。作者は「すべての生き物は、『ナンバー1になれるオンリー1の場所』をもっている」。その場所が「ニッチ(ある生物種が



生息する範囲の環境・生態的地位)」であるといえます。生物はそれぞれが棲み分けをしているのです。本書の中から植物のいくつかの疑問に答えてくれている部分を見てみます。

恐竜の時代の植物は「木」であり、植物は恐竜に食べられないために大きくなり、恐竜は植物を食べるために大きくなり、植物も恐竜も巨大化していったのだといえます。しかし、時代は移り変わり、白亜紀の終わりがごろになると地殻や気候が変動する変化の時代になります。「環境は常に安定しているわけではない。環境に変化が起こる場所では、チャンスが増える」。植物は新しいニッチを求め、素早く環境に順応できる草が誕生し、しかも構造が単純な単子葉植物が誕生しました。やがて木と同じ双子葉植物の草も誕生します。しっかりと幹を作る木は大きくなりますが、草はスピードが重視されます。

「パイオニアと呼ばれる植物は、とにかく素早く新たな土地に進出する」ので、タンポポのような綿毛で種を飛ばす植物が有利になります。更地になった土地にもハルノノゲシとオニノゲシがあり綿毛で種を飛ばして進出してきたのでしょう。また、鷹取山



②ベニバナボロギク

では3年前の台風15号で倒れた木の掘り返された場所にベニバナボロギクがたくさん繁茂しました(写真②)。

ほかにも疑問を解決してくれたことは、木には針葉樹と広葉樹があることです。緯度が高く寒い地域で強さを発揮しているのは古いタイプの裸子植物の針葉樹

です。新しいタイプの被子植物は導管という新しい

タンポポ2種

タンポポと名のつくキク科植物は多いようですが、竹之下さんからこの地域では珍しいタンポポの写真提供がありましたので紹介します。

一つ目は竹之下さんの自宅から出てきたコウリンタンポポです。花は橙色で、10輪くらいの花(頭花)をつけます。土が運んだと思われます。コウリンタンポポはコウリンタンポポ属のヨーロッパ原産の帰化植物で、おもに北海道に広がっているようで

システムで水を吸い上げますが、このシステムは導管の中の水が凍ると気泡ができて、解けても水を吸い上げられなくなります。古いタイプの裸子植物は仮導管で、凍っても解ければ水を吸い上げることができるのです。

カントウタンポポ等、早春に咲く植物(鷹取山ではヒメオドリコソウ(写真③) ホトケノザ オオイヌノフグリ ハルジオン等)は群落をつくりま



③ヒメオドリコソウ

それらがまだ寒い時期に咲くので、花粉を運ぶのは寒くても活動するアブに頼ることが多いそうです。ハチは同じ植物を識別できるので、群落をつくらない植物でも同じ種類の花に花粉を運ぶことができますが、アブは識別できないので群落を作ることと同じ仲間から花粉の運搬を可能にしているのだそうです。

成長進化するには環境に合わせて変わるのかどうかにかかっています。40~50年前に建てられた昭和の家が撤去されて、新しく建つ令和の家は外観が全く異なるように、現在に近づくほど変化の速さは速くなっているように思います。例えば人間の生活はキリスト誕生からたった2000年でも、何と大きく変わったことでしょう。この変わり身の早さが人間を進歩させているのかもしれませんが。このほかにもこの本が植物の多くの疑問を解決してくれました。

(市川實)

す。日本へは明治時代の中期に観賞用として渡来し、県内では1996年に初めて記録されています。ちなみにカントウタンポポ、セイヨウタンポポはタンポポ属です。

二つ目は今年4月下旬に鷹取山東屋の近くで咲いていたウズラバタンポポです。こちらはヤナギタンポポ属でヨーロッパの帰化植物で、1999年に神奈川県横浜市で初めて確認されているそうです。花はコ



コウリンタンポポ

ウズリナのような感じですが、葉はへら型で濃色の斑点があり、ウズラの卵の模様から和名がつけられています。これらのタンポポは比較的新しい帰化種でこれから増えてくるかもしれません。

(本多久男)



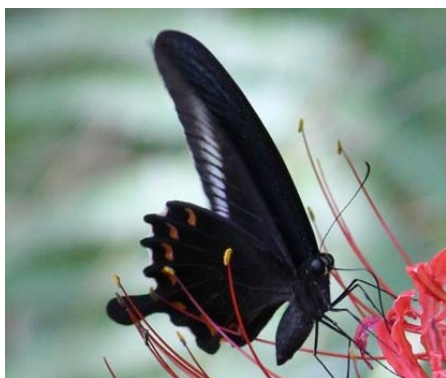
ウズラバタンポポ

俳句

新しく会員になられた小島常義さんの、俳句を紹介します。昨年、自然観察会に参加した時に作られた俳句を投稿していただきました。



熊野水木の花



烏揚羽

六月のテーマ「初夏に咲く花」
くまのみずき
熊野水木雨降る森を明るくす
七月のテーマ「蝶とその食草」
からすあげは
尾根道の烏揚羽や風動く
九月のテーマ「鷹取山の秋の七草」
ぬすびと
盗人も猫の名もあり萩咲けり



萩の花

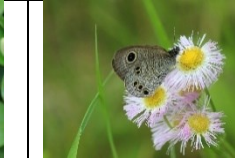
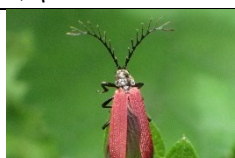
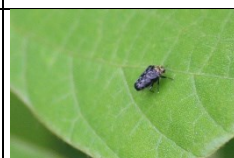
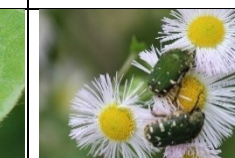
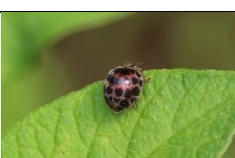
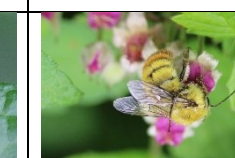
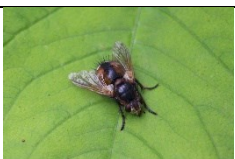
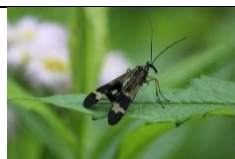
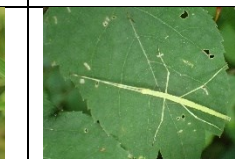
虫と出会えた幸運な日

鷹取山を歩いても、いつも多くの虫に出会えるとは限りません。多くの虫に出会い、写真を撮ることができた日は「幸運な日」です。植物調査のあった2022年5月15日は、そんな幸運な日でした。写真は、出会った虫のうちの25種です。

湘南鷹取4丁目第2公園でアカシジミに出会えたのは、特に嬉しいことでした。アカシジミのように

ゼフィルスと呼ばれるシジミチョウは、ナラ枯れの影響による減少が心配されています。

多様な植物が生育する鷹取山には、多様な虫が息しています。そんな鷹取山を歩いていると、虫好きにとって幸運に恵まれる日が年に何度かあり、身近な自然をありがたいと思う気持ちが自ずと湧いてきます。初めて会った虫のことを調べると、次にその虫に出会えるのが楽しみになります。（三科清高）

				
アオスジアゲハ	アカシジミ	イチモンジセセリ	カラスアゲハ	ヒメウラナミジャノメ
				
モンシロチョウ	オオウンモンクチバ	クロマダシロヒメハマキ	シロモンヒメハマキ	マエキヒメシャク
				
ウスイロクビボソジョウカイ	オバボタル	カクムネベニボタル	クズノチビタムシ	コアオハナムグリ
				
コフキゾウムシ	ヤマトアザミテントウ	ラミーカミキリ	エサキモンキツノカメムシ	コマルハナバチ雄
				
セスジハリバエ	ナミハナアブ	ヤマトシリアゲ	キバラモクメキリガ幼虫	ナナフシモドキ幼虫

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会

<http://takatori.yama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表： 本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com